

### 3・3 誌上发表論文抄録

#### Surveillance of Pathogens in Outpatients With Gastroenteritis and Characterization of Sapovirus Strains Between 2002 and 2007 in Kumamoto Prefecture, Japan

原田 誠也, 岡田 峰幸\*<sup>1</sup>, 八尋 俊輔\*<sup>2</sup>, 西村 浩一, 松尾 繁\*<sup>3</sup>, 宮坂 次郎\*<sup>4</sup>, 中島 龍一\*<sup>5</sup>, 島田 康\*<sup>6</sup>, 上野 剛彦\*<sup>7</sup>, 池澤 滋\*<sup>8</sup>, 篠崎 邦子\*<sup>1</sup>, 片山 和彦\*<sup>9</sup>, 脇田 隆字\*<sup>9</sup>, 武田 直和\*<sup>9</sup>, 岡 智一郎\*<sup>9</sup>

Journal of Medical Virology, 81, 1117-1127 (2009)

PCR法を用い、2002年～2007年間に639件の下痢糞便検査を行ったところ、421件(65.9%)から種々の病原体が検出された。内訳はノロウイルス260件(61.8%)、サポウイルス81件(19.2%)、ロタウイルス41件(11.6%)、アデノウイルス19件(4.5%)、エンテロウイルス13件(3.1%)、アイチウイルス1件(0.2%)及び細菌性11件(2.6%)であった。なお、陽性検体421件中22件(5.2%)は混合感染であった。サポウイルス81件についてシーケンス解析を行った結果、年次ごとにgenogroupの変化が観察された。特に2007年には、県内でそれまで検出されたことの無かったgenogroupIVによる地域流行が発生した。

\*1 千葉県衛生研究所, \*2 現熊本県健康危機管理課, \*3 現熊本県菊池地域振興局保健福祉環境部, \*4 現熊本県食肉衛生検査所, \*5 前微生物科学部長, \*6 しまだ小児科医院, \*7 上野小児科医院, \*8 いけざわこどもクリニック, \*9 国立感染症研究所

#### 超臨界流体抽出を用いる土壤中の残留性有機塩素系農薬分析法

吉田 達雄, 村川 弘, 福島 孝兵\*, 吉元 秀和, 飛野 敏明  
分析化学 Vol.58 No.11(2009)

超臨界流体抽出(SFE)を用いて土壤中の残留性有機塩素系農薬13成分について、分析法の開発を行った。SFEのモディファイアとして、1-ヘキサンスルホン酸ナトリウムを用いた。添加回収試験の結果、風乾土壌2gに対して水2mlを添加した場合、回収率81-103%と良好な値を得た。これはソックスレー抽出と比較して同等の抽出効率であった。さらに、本抽出法の妥当性を調べるため、ディルドリン及びp,p'-DDTを含有する汚染土壌を対象に抽出試験を行った。その結果、ソックスレー抽出で得られた値に比べて100-105%となり、同等の値を示した。本法は抽出時間が30分程度と短く、操作も簡易な方法であり、さらに有機溶媒の使用量が少ない利点がある。

\* 現熊本県廃棄物対策課